

# ごみを減らそう!!



2004年の幕明け

初詣の裏側で  
エコ活動・・・

参拝する平安神宮参道



露店の裏にはごみの山が。



取り扱は65リットル入りの筒にゴミを  
入れて入されている竹串は竹筒に  
入れて入れてある筒へ入れてください。



割り箸は7根で1枚  
割り箸は王子製紙(株) 神崎工場  
(電話:06-6488-3211)  
の回収箱ではがき一枚が出来ます。

## CONTENTS

- ◆特集 1 2  
日本初! 商店街が環境認定取得
- ◆特集 2 4  
家庭系有害廃棄物の適正処理をめざして
- ◆NEWS 6  
リユースびん調査・ごみ減量実践講座ほか
- ◆行政からのお知らせ 7  
京都市循環型社会推進基本計画「京のごみ戦略21」策定
- ◆Report 8  
第4回環境フォーラムきょうと「舞台裏インタビュー」
- ◆会員探訪 10  
めぐるくん推進友の会・福田金属粉工業株式会社
- ◆Series 「やってみます、わたしの住む町で、ごみ減らし」 12  
鏡山学区地域ごみ減量推進会議(山科区)  
紫竹地域女性会ごみ減量推進会議

初詣客で京都の有名神社は毎年おおきにぎわい。それに伴うごみの量も気になるところ。02年以來、初詣の割り箸回収などを実施してきた千里リサイクルプラザ研究所の研究員坂東淳子さんや地域環境デザイン研究所(エコトーン)のメンバーらが04年も実施すると聞き、1月3日平安神宮を覗いた。参道には約70店の露店が軒を連ねる。集めたのは2日間で約20キログラム(約5000食分)。今年「露店一軒一軒に容器について聞き取り調査をしています」と坂東さん。昨年、京アジェンダ21フォーラムとエコトーンで行った「平安神宮初詣対策社会実験」に参画した坂東さんのねらいは、初詣でのリユース食器の導入だという。いつの日か初詣のごみゼロの日がくるかも。

# 古川町商店街が 京都発の環境認証 「KES」を取得。

2004年1月14日(水) 授与式が行われる

三百年という歴史を持つ東山区・古川町商店街が、京都市ごみ減量推進会議の支援を得て、このほど京都発の環境規格として知られる「KES」の認証を取得した。商店街での環境認証取得は全国で初めてで、今後の事業展開に期待が寄せられている。「KES」への道のりを追った。



認証会認証を受け取る松本理事長

【目せ！「KES」の音が高まり…】

古川町商店街といえば、回振興組合理事長松本明光氏が京都市ごみ減量推進会議副会長・事業化委員会の委員長でもあり、京都市推奨事業系ごみ袋をいち早く採用したり、マイバッグ持参を呼びかけするなど、環境への取り組みに積極的だった。さらに「一步踏み込んで「KES」を目指そう」という話を持ち上がったのは、03年1月のことだった。

【着実に評価を得る「KES」  
認証取得は305団体】

「KES」は02年、市民・事業者と京都市で構成される環境まちづくり組織「京（みやこ）のアジエンダ21フォーラム」が、中小企業にも取り組みやすく、低コストで挑戦できる環境認証事業として立ち上げたKES・環境マネジメントシステム・スタンダード（略称：KES）。スタート以来、認証取得組織を増やし続け、すでに305団体が認証を得ており社会的認知度や評価も日々高まっている。古川町商店街にもその評価は届いていた。

KESの認証までには、構築講座受講を皮切りに、コンサルタントの指導の下、システムの構築・運用、受審申請、書類審査、本審査と判定を受け、適合との評価を得なければならぬ。ごみ減量、啓発活動など、目標に向け、一定期間具体的な方策の実施が欠かせない。

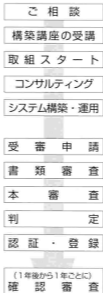
【11店舗が認証取得に賛同  
目標を掲げて、実施】

古川町商店街では、11店舗が認証取得に賛同し、4月の環境宣言後、次のような目標を掲げて実施に努めた。

①廃棄物の削減（京都市推奨事業系ごみ袋の使用、割り箸を竹箸に変更し再使用、古紙類を分別し、リサイクルル



## KES認証取得の流れ



一人ひとりに登録証が手渡された。

## 段ボールの分別回収が 予想以上の成果をあげる

03年6月から12月の本審査までの実施で目標達成に際だつて効果をもたらしたのは段ボール古紙のリサイクルだ。



商店街の空き地に拠点を設け、分別収集を行い毎月1回業者へ回収してもらうルートを確立した。それまではなにもかも一緒ににごみとして排出していた店舗がほとんど。ある店主は「正直、分別はめんどうだった」と振り返る。しかし、段ボールの分別とリサイクルによりごみの排出量の削減目標は当初の2% (約120キログラム/月) をはるかに上回る結果 (約250キログラム/月) となり、

12月の本審査では高い評価を受けた。店舗周辺の清掃は毎日行っていたが、認証取得に向け、白川の清掃に毎月1回取り組んだ。

## 環境への自己意識を高めながら 認証取得の日を迎える

計画を進め、本審査を経て認証取得の連絡を受け、04年1月14日、松本理事長宅で認証授与式が行われた。

コンサルティングを担当した荒川佳夫氏から認証を授与され、松本会長は「KES」取得の過程で環境への意識が高まった」とあいさつ。荒川氏は「商店街での環境認証取得は国内で初めて。ぜひ今後の商いに活かして」とエールを送った。

荒物店を営む梶原さんは「最初は雲をつかむようだった、しかし、実際に動き出すと「大変やな、けどやらな」という思いが続けてきたと、感慨深げに話した。

京都市ごみ減量推進会議では、古川町商店街の「KES」取得がモデルとなり、他の商店街への波及効果に期待したいと語る。当初から相談を受け、影で支えてきたごみ減量推進会議事務局安田氏は「みなさんの努力が実った」と商店街のメンバーを労った。

古川町商店街1店舗の方々、「KES」認証取得おめでとう！



## 原 強 NPO法人コンシューマーズ京都

### ■プロフィール

NPO法人コンシューマーズ京都理事長のほか、レイチェル・カーソン日本協会専務理事などを務め、環境汚染リスクの削減に取り組み、02年より「化学物質リスク研究会」を発定させ研究を重ねてきた。04年2月「くらしの中の化学物質」を出版予定。京都市こみ減量推進会議監事でもあり、03年調査研究事業「家庭系有害廃棄物」に取り組んでいる。

# 家庭系有害廃棄物の適正処理をめざして

ごみとして出すのに困っている  
スプレー缶や乾電池

現在、京都市こみ減量推進会議の調査研究事業として「家庭系有害廃棄物」についての調査研究を行っています。今回のレポートはその中間報告です。

今回の調査研究では、最初にいくつかの地域の方に協力いただき、家庭から出るごみのなかで「危険なもの」「有害なもの」「燃やさない」「燃やしてはいけないもの」について聞いてみました。集まった回答によれば、フラスコ類、カセットボンベ、雨傘、刃物やカッター、古い灯泡、ライター、化粧品(空びん)、紙おむつ、電球、体温計、農薬や殺虫剤、小型家電製品など、普段、一般ごみとして出していくものが幅広くあげられました。中でもスプレー缶や乾電池については多くの消費者・市民がごみとして出すのに困っていると回答していただくのは特徴的でした。

各市町村ごとに指定される「ごみとして受け入れないもの」

次に「家庭系有害廃棄物」というときの「有害性」のとらえ方について調べてみました。現在のごみ行政においては「特別管理廃棄物」とか「適正処理困難物」「排出禁止物」といった用語が目につきます。

「特別管理廃棄物」とは「爆発性、毒性、感染性その他の人の健康または生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状」を持つもので、一般廃棄物についていえば「エアロゾル、ゲル状に含まれるPCBを使用した部品、ごみ焼却施設集じん灰、病

院等から排出される感染性の一般廃棄物」があげられています。他方では、京都市をはじめ各市町村ごとに「ごみとして受け入れないもの」をそれぞれの手え方にもとづき指定しています。

これらをまとめて整理すると、「家庭系有害廃棄物」の「有害性」とは①爆発性や引火性があるもの ②有毒な物質をふくむもの ③感染性があるため特別な処理が必要なもの ④収集処理が困難なもの、などに分類できることがわかってきます。このように分類したうえで「家庭系有害廃棄物」といふのは別表のように整理できます。

### 京都市では「燃えないごみ」の分別収集も検討を

京都市のごみ収集方式との関係では、これらに加えて、他の自治体で見られる「燃えないごみ」の分類にはいるものが「家庭から出るやっかいなごみ」としてあげられる実態があるといえます。先にあげた「ごみとして出していくもの」の中には「燃えないごみ」の分別排出ルートさえあればそのルートにあるものが少なくなりませぬ。京都市のごみ収集方式の見直しにあたっては、小型家電製品の分別収集が部分的にはまっていますが、「燃えないごみ」の分別収集についても検討が必要なのではないでしょうか。

### 適正処理システム整備に不可欠な拡大生産者責任

いすれにせよ、これらの「家庭系有害廃棄物」についての適正処理システムの整



備かもとめられるのですが、その方法としては欧米などの事例からいっても①販売店からメーカーへの回収ルートを整備する②できるかぎり身近なところへ回収ステーションを設置する③各家庭を巡回する回収システムを整備する、などが考えられます。実際の業務については、自治体と事業者・市民団体がそれぞれその特性を活かして役割分担しあう方法を考えていくことがよいのではないのでしょうか。

大事なことは、これらのシステム設計にあたり「拡大生産者責任」(商品が最終的に廃棄される段階までふくめてメーカーに環境負荷をへらす責任がある)という考え方を明確にしておくことです。この点が明確にされないとき、回収コストが自治体の負

担になったり、消費者・市民の負担になることも予想されます。また、いつまでも「有害なごみ」を生み出す商品が生産・販売され続けることになるでしょう。このような視点から、手始めにスプレー缶や乾電池などの関連業界団体との対話の場をもつことも考えたいものです。

わたしたちの調査研究はまだ入り口に立つばかりです。わたしたちに、もっと多くの方と協同の調査研究にしてください。多くの方と協同の調査研究にしてください。多くの方と協同の調査研究にしてください。多くの方と協同の調査研究にしてください。

### 「くらしの中の化学物質」出版記念行事

#### 講演会 「化学物質とリスクコミュニケーション」のご案内

と き：2004年2月28日(土) 午後1時30分～  
と ころ：京エコロジーセンター (伏見区深草池ノ内町)

- ◆講演1 「PRTRデータを市民としていかに活用するか」  
中地重晴 (有害化学物質削減ネットワーク代表)
- ◆講演2 「土壌汚染対策とリスクコミュニケーション」  
姜 永根 (カンコンタン) (株式会社大岡代表取締役)

●参加自由：無料  
●主 催：コンシューマーズ京都 TEL.075-251-1001

#### 「くらしの中の化学物質」出版ガイド

03年6月から9月にかけて行われた「化学物質と環境」セミナー(主催：京都消費者団体連絡協議会、共催：レイチェル・カーソン日本協会、京エコロジーセンター)の講演・報告が出版にまとめられました。  
(発行：かもがわ出版 価格：1500円＋税)

- ◆主な内容：
  - 「出版に寄せて」高月 純
  - 「化学物質と人間」立川 淳
  - 「レイチェル・カーソンに学び、食と暮らしを見直す」あざみ千子
  - 「ミナマタの経験と教訓」浅岡美恵
  - 「化学物質汚染と健康障害」泉 邦彦
  - 「化学物質のリスクの削減と予防原則」飯田秀男
  - 「子どもの健康と化学物質リスク」森 千里
  - 「ごみと化学物質リスク」原 強
  - 「家庭系有害廃棄物の管理システムと分別収集」西阿秀雄

#### 「家庭系有害廃棄物」の分類

有害性の区分	品目例
爆発性や引火性のあるもの	①スプレー缶 ②カセット式ガスボンベ ③小型ガスボンベ ④ライター ⑤液体燃料(灯油) ⑥火薬
有害な物質をふくむもの	①化学薬品 ②農薬・殺虫剤 ③医薬品 ④溶剤・塗料 ⑤蛍光管 ⑥電池・バッテリー ⑦体温計
感染性があるもの	①在宅医療器具
収集処理が困難なもの	①ピアノ ②大型金庫 ③スプリング入りマットレス ④タイヤ ⑤自動車・オートバイ ⑥消火器

## 家庭系有害廃棄物はどう捨ててほしいの？

京都市の場合

ゴキブリ殺虫剤、整髪料、カセットボンベ、ライターなど、どのお家庭にも有害廃棄物が眠っているはず。では、どんな方法で捨ててほしいのでしょうか？京都市の対応をご紹介します。

**スプレー缶** (殺虫剤、整髪料、消臭剤、塗料などのスプレー缶) →中のガスを使い切ってから屋外の風通しのよい火気のない所で穴を開けて、一般ごみに。ガスを抜かずに出すと爆発の恐れがあります。

**ライター** →使い切って一般ごみに。一度に大量は出さないよう注意。

**蛍光管** →割れたりしないよう紙のケースなどに入れて一般ごみに。

**電池** →筒型乾電池は各まち美化事務所、各区役所などの回収箱に。ニカド電池、ボタン型電池は購入した販売店に返却。

## システム開発をにらみ、リユースびんを多角的に調査

リユースびんプロジェクトチームの活動が広がりを見せている。遠藤明子さんが中心となり京都市ごみ減量推進会議・調査研究事業として「リユースびん回収拠点マップ」づくりなどを進めてきた同チームは、03年7月、京（みやこ）エコリサーチセンター「環境都市づくり推進のための社会実験支援事業」の支援を受け、発展的な調査研究を展開中だ。

03年9月は高橋カレットを見学、ガラスびんリサイクルの工程を視察した。

10月は、京都市南部資源リサイクルセンターに出向き、びんの排出状況を調査。資源として運び込まれたびんを、ワンウェイとリユースでできるもの、用途や容量などについて調査。ワンウェイびんのおまりの多様さに、「リユースびんでの商品化が急務」との思いを強くしたと参加した大西啓子さん。

11月は資源ごみ回収コストの算出の仕方について京都府立大学山川肇氏の協力を得て学習した。バックカー



再資源リサイクルセンターでびんの種類などを調べた



リユースでできる一升びんも置いている

車やリサイクルセンターの減価償却費や人件費などを含め、コストの割り出しについて研究。1月には京都市にヒアリングを実施し、実情をつかんだ。

さらに在京の酒、酢などの製造メーカーを対象にしたヒアリング調査を行う予定にしている。

共通びんの開発やリユースシステムの確立を視座に置き、製造メーカーや小売店をも巻き込んだ同チームの動きには、循環型社会のモデルとなるべくその成果に期待が寄せられている。

## 新企画「見て聞いて・ごみ対策ミニツアー」京都ホテルオークラなど3企業を見学

ゼロエミッションが叫ばれ、企業の廃棄物対策が急速に整備される今、ごみ削減の現場見聞が何よりの刺激になると、今年度、現場の協力を得てミニツアーが実施された。京都市ごみ減量推進会議広報活動実行委員会が京都工芸館と共催で行う、エコリサーチはエコミー03ごみ減量実践講座のオプション企画という位置づけ。

京都ホテルオークラ（9月）川島織物（10月）、日新電機（11月）を見学した。現場では実情がリアルにつかめるのか参加者からの質問も活発に飛び出した。参加者からは「自社のごみ減らしに活かしたい」と感想も。当初予定していた定員20名がオーバーするほど盛況裡に閉講した。「次年度もぜひ」との声が早くも届いている。



川島織物で廃棄物の処理方法などを学ぶ



日新電機社内で案内する酒野聡一さん

## ジャスコ洛南店で買い物袋持参・簡易包装キャンペーン

容積からするとごみの約6割は容器包装材。京都市ごみ減量推進会議全市キャンペーン実行委員会では、ごみ減量をはかるため買い物袋持参・簡易包装キャンペーンを実施した。10月19日「中京ふれあいまつり」（会場・中京中学校）では、実行委員や理事から、「買い物には買い物袋を持参ください」と声をかけ、鉄腕アトムマークの入った買い物袋を配布した。

10月28日には、ジャスコ洛南店（2階イベントホール）でミニ講演会を開いた。

ふるしき研究会森田知都子さんが「レジ袋を断つてふるしきでお買い物」を、買い物袋として便利なるふるしきの包み方を紹介。イオン（株）環境・社会貢献部長上山静一氏が「買い物袋持参呼びかけ」をテーマにジャスコで展開されているマイバスケット運動をはじめ、地域と運動した生ごみ堆肥化対策などについて話した。

また、この日も理事や実行委員による呼びかけがあった。



買い物にはマイバッグを!!

## 03年度は、循環型社会の具現化に向けて エコロジーはエコノミーごみ減量実践講座

99年度からスタート、今年度で4年目を迎える「エコロジーはエコノミー・ごみ減量実践講座」。当初からすると循環型社会の実現化に向けて時代は大きななりを見せている。

03年度はその動きに対応すべく循環型社会形成の基礎づくりを配座し、5講座を企画。すでに第1回、環境省と京都市より講師を招き「循環型社会を生き抜くために」と題する講座を開講。

第2回は「王子製紙の循環型企業としての取組」をテーマに、大手製紙メーカーの資源再生利用と地球温暖化対策について学んだ。第3回は「知っておきたい食品リサイクル法のツボ」で近

畿農政局の講師から法律に関する解説を聞いた。また大阪府産業技術研究所、井

本氏より生ごみ堆肥化の実証事例を紹介した。第4回は、04年1月22日「ごみ情報最前線」とし今話題のバイオマスとハイオクをテーマに行われた。

第5回予告  
2月12日(木)  
「観光京都のごみ」  
「おもてなしの視点で」

●講師  
石本 修 氏 (京都駅ビル開発(株)取締役管理部長)

深井 純一 氏 (立命館大学産業社会学部教授)

## 市民向け ごみ減量実践講座 「めぐレットペーパー」 を学ぶ

循環型社会の形成の柱となるごみ問題。ごみに関心があり、日常活動に取り組んでいる市民を対象とした「市民向けごみ減量実践講座」が、今年度も引き続き開講されている。

第1回は京都市ごみ減量推進会議が学校給食用牛乳パックをリサイクルし、京都ブランドのトイレットペーパーとして展開する「めぐレットペーパー」について開講。製紙メーカーとして協力する泉製紙より宇高昭造氏を迎え開催(11月28日、於：京エコロジーセンター)。めぐレットペーパー事業の経緯や問題点をはじめ、古紙の現状などについて学んだ。98年スタートしたこの事業は、古紙をとりまく流動的な市場下において苦戦を強いられている。古紙に関する知識を深めてもらい、めぐレットペーパーの普及をはかるうとの狙いもあり、宇高氏を招いた。当日は15名が参加し、紙の生産ラインなど、宇高氏の説明に聞き入った。

第2回市民向けごみ減量実践講座は、1月30日秘密書類リサイクル事業関連工場である大津板紙を見学する。

第3回は参加型学習としてエコクッキングを予定している(2月27日)。



講演する宇高昭造氏



第4回講師 講演する(株)タクマ 高野氏



第4回講師 講演する(株)デックコーポレーション 大野氏

### 第3回市民向けごみ減量実践講座 エコクッキング

- ◆日時：2月27日 (火)午後1時30分
- ◆会場：京(みやこ)エコロジーセンター
- ◆募集人員：30名 ◆参加費：500円
- ◆メニュー：赤飯まんじゅう、キムチおやき



## 京都市循環型社会推進基本計画

### 「京のごみ戦略21」策定

京都市が先ごろ発表した「京都市循環型社会推進基本計画」。これは京都市廃棄物減量等推進審議会からの答申（平成15年9月）を受け、さらに市民から意見（パブリックコメント）求めて、昨年12月に策定しました。その骨子を紹介します。



#### 1. 策定の経過

計画は、廃棄物処理法で市町村に策定が義務付けられている「一般廃棄物処理計画」として、平成11年6月に策定した前計画に代えて新たに策定しました。

策定に当たっては、市長の諮問機関である京都市廃棄物減量等推進審議会からの答申（平成15年9月）を尊重し、かつ市民の皆様からのご意見を十分に反映するよう努めました。

#### 2. 計画の要旨

「そもそもごみとなるようなものの利用を抑制し、なお排出されるものについてはできるだけ再生利用、それでも残るものについては適正に処理する」という考え方を基本に、①ごみの発生抑制や再使用に努める上流対策の強化、②集団回収や拠点回収などを活用した分別品目とリサイクル機会の拡大、③環境負荷の少ない廃棄物管理システムの構築等による適正処理対策の推進、を「施策の三本柱」として掲げており、従来のごみ処理中心型からごみをコントロールする循環管理型の施策へと転換を図ることとしています。

また、計画の中間目標年度を平成22年度、最終目標年度を平成27年度（計画期間：平成15年度から平成27年度）とし、ごみの総排出量の削減率や再生利用率を設定するとともに、具体的な取り組みについてもきめ細かい数値目標を設定し、その進捗管理を徹底していくことにより計画を着実に推進していくこととしています。

#### 計画の体系

#### 明るい循環型都市 京都

安全・安心な暮らし  
環境負荷が軽減された社会の構築

まちの活性化  
21世紀循環型ビジネスの創成

#### 市民・事業者の主体的参画

#### 市民の取組

- ごみの排出者一人としての責任の自覚と行動
- 豊かさや「もの」の量より生活の質に求めるライフスタイルへの変換

#### 事業者の取組

- 環境にやさしいビジネススタイルの実践
- 排出者責任や拡大生産者責任を踏まえた、ごみ等の適正なリサイクルや処理の取組

#### 施策の三本柱

(行政の重点施策)

#### 上流対策

- R型エコタウンの構築
- ごみ減量推進会議の取組促進
- 環境教育の充実・環境学習協会の拡大
- グリーンページ（総合環境情報誌）の作成
- 事業系ごみに関する制度の充実に管理指導体制の強化

#### 分別・リサイクル対策

- 缶・びん・ペットボトルの分別収集のあり方の検討
- その他プラスチックの専用袋
- 包装分別収集の全市拡大
- 透明な分別の導入による適正排出・分別排出の促進
- 新しい集積役の取組（コミュニティ回収型）の普及・促進
- 有害物・危険物の管理システムの検討

#### 適正処理対策

- 廃棄物管理システムの整備計画の推進
- LCAを活用した廃棄物管理システムの選択
- 地域における環境学習の場としての施設整備の推進
- バイオマス材活用に向けた取組の推進

地球温暖化防止  
対策との連携

ライフスタイルの  
変化への配慮

ごみ処理における  
「安全・安心」の確保

計画の概要版・本編については、市役所・区役所・支所等で配布するほか、循環型社会推進課ホームページでも掲載しています。詳細のお問い合わせは、下記までお願いします。

〒604-8571（住所不要）京都市環境局環境政策部循環型社会推進課  
（TEL）075-222-4091（FAX）075-213-0453  
（ホームページアドレス）<http://www.city.kyoto.jp/kankyorecycle/>



# 「第4回環境フォーラムきょうと」 5分間スピーチをした二人に 舞台裏インタビュー

03年11月29日、朝から雨だった。にもかかわらず、「第4回 環境フォーラムきょうと」（主催：京都市、京都府産業廃棄物協会、京都市産業廃棄物連絡協議会）が開かれた京都市北文化会館へ多くの人が足を向けた。プログラムの第1部は市民による5分間スピーチ。「廃棄物新世紀～私の考えるこれからのごみ処理」という題目で5名の方々が日頃から考えていること、感じていることについて主張した。

今回は、その中の2人の方に5分では言い尽くせなかった「あんなこと、こんなこと」を舞台裏で聞いた。

## 古材が捨てられるのはもったいなくて

豊本裕子さん

現在、建築設計事務所勤務する豊本裕子さん。最初はインテリア的な興味から古いものに惹かれ「NPO法人京都古材バンクの会」という市民団体を知り、主旨に共感し入会。

その古材バンクは、古い建物やそこで使われていた梁・建具などを活用するための相談を受けたり、保管・再利用をする場についての情報交換などに取り組んでいる。活動を通して古材の活用が、ブームで終わらないよう本質をしっかりと見据え「上っ面」だけでなく「構造や技術」を踏まえ「長いスパンで」トータルでとらえることの大切さが身にしみたと、と豊本さん。02年建設リサイクル法が施行され、リサイクル一辺倒になり、多くの木材がチップになっている実情を嘆く。「まだまだ使えるのもったいない」、古材をストックしあくまで「そのままの形でリユースできれば」と言う。今では古材バンクの会で積極的に活動する豊本さんは「全国に地元で根ざした古材リユースセンターができること」を願う。

古材リユースについてスピーチし「木のいのち生かしま賞」を贈られた豊本さんは、「やっぱり広くアピールしないと・・・、知ってもらわなければ何も始まらないと締めくくった。



スピーチを終えた豊本さん（左）と西野さん（右）



## メディアを利用してごみ処理のイメージをプラスに

西野あかりさん

ごみ処理についてメディアを利用しマイナスイメージの改善に取り組みよう！と主張したのは西野あかりさん。日頃、自分の思い込みや、噂を信じてごみ処理をしている人たちが、無関心態に向けてメディア発信することで、正しい情報の伝達やマイナス意識の改善を目指そう、というのがスピーチの主旨だ。

現在、大学4回生の西野さんは、自分でできることから始めよう、そして自分ひとりではなく「みんなと一緒にやろう」と呼びかけている。昨年秋の学園祭では、「リサイクル豚」と呼ばれ、学校給食の残飯で育てられた豚と京野菜で作った豚汁を、コッカルという環境負荷の少ない容器で提供した。この体験で得た楽しさから、みんなで作れば「しんどさ」から「楽しさ」に変わるとの信念を持った。

みんなで作るときに、大切なのは、情熱を持って何度も言い続けること、そして面白さをアピールすることだと信じている。

「自分が変われば、周りが変わる、世界も変わる」。ある大学教授に教えられたこの言葉を私たちへのメッセージとして語ってくれた。

西野さんのスピーチには「未来に「あかり」が見えるで賞」が贈られた。



会場の一角には、当日スピーチされた山本裕子さんによるリサイクルきまもの展示も行われた。

# 会員探訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多様な顔ぶれで構成される京都市こみ減量推進会議。今回も2団体の活動を取材しました。

取材：渡利美穂（京都大学環境保全センター 大学院生）



取材に応じて下さった会員  
山内寛さん



子供たちを対象にした減り教室

## めぐるくん推進友の会

Q 「めぐるくん推進友の会」とは？

A 京都市は1994年から「こみ減量推進員養成講座」を設置し、こみ減量推進員の養成を開始しました。養成期間は一年間で、京都市の26区発生・処理の現状やこみ減量のための方策について研修を受けるのですが、その研修を終了した市民により、96年に設立されたのが「めぐるくん推進友の会（以降、当会）」です。こみ減量推進員を養成した市民の自主的な集まりとして活動しています。

Q 「めぐるくん」とは？

A 京都市のこみ減量のイメージキャラクターです。「めぐるくん」というのは、回って来たものにも回るといった意味があることから、リサイクルをイメージして名付けられました。こみを捨てる前にもう一度何らかの形で利用できないか考え、こみを減らしていくことが願いが込められています。このめぐるくん減らしの取り組みを推進しようというのが当会の名前の由来です。

Q イベントでも大活躍？

A 環境関連の各種お祭り・イベントや京都市内の区民祭へは数多く参加しています。そこでは特に「めぐレットペーパー」の普及・啓発に当たってきました。「めぐレットペーパー」とは、市の紙のゴミもたちにより回収された学校給食用牛乳の紙パックから作成したリサイクルペーパーです。現在、市役所内や公衆便所、交通局で使われていて、一部の小中学校にも導入され、また市販もされています。小学校では、自分たちの回収したものが生まれ変わって戻ってくるという目に見えてわかる、大好評です。

Q 紙すき体験も？

A これまでのイベントでは、パネルでの紹介やペーパー実物の展示が中心だったのですが、03年からは、実際に紙パックから紙を作る方法を知ってもらうため、紙すき体験を盛り込むようになりました。紙とコーティング部分に分ける作業など、準備が結構大変なのですが、その準備段階から参加できるようなプログラムを行っています。

また、03年から京エコロジセンターと連携して、紙すき教室を開いています。03年12月13日は、約26人の小学生がオリジナルのクリスマスカード作り挑戦し、みんな喜んで世界に一枚しかない作品を持ち帰りました。次回は、04年2月21日に予定していますが、今後定期的に続けていきたいと思います。

Q 大規模なアンケート調査も？

A こみの減量と発生の抑制を目標に設立した会ですので、現状を把握し、対策に結びつける情報を得るため、年に1回アンケート調査を行っています。これまでの調査は以下の通りです。毎回200〜700人程度にアンケートに回答して頂いており、貴重なデータ（報告書作成）に なっております。

◆これまで実施したアンケート調査◆

- 1 00年 年々、こみ減量の取り組みの現状
- 1 00年 市民生活者のこみ減量意識
- 1 00年 再生紙利用促進アンケート
- 2 00年 ペーパーレス化に関するアンケート
- 2 00年 環境問題に関するアンケート
- 2 00年 市民生活者のこみ減量意識
- 2 00年 市民生活者のこみ減量意識

Q 今後の展開は？

A 04年度の課題としては、めぐレットペーパー普及のために新たな展開を企图中。環境月間にあわせた企画を準備しております。どうが

ご期待ください！

また、さらなる発展としては、今後、こみの発生抑制を実践する賢い消費者「クリーンコンシューマー」の養成に力を注ぎたいと構想を練っています。また、大量生産・大量消費の社会で生まれ育つて大人になった世代の人々に、実質的な理解を求めのには至難の業です。そして、子供たちの教育を通じて家族のライフスタイルを少しでも変えたいという、出前教室等にもさらに積極的に取り組みたいです。

このように、世代ごとに関わり、世を変えつつ、より多くの市民を巻き込み、こみ減量を推進していきたいと思っております。

イベントへも積極的に参加  
(03年5月京都こみ祭りで)



## めぐるくん推進友の会

事務局所在地：  
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町  
488番地 京都市環境局  
環境政策部循環型社会推進課内  
TEL：075-222-4091  
FAX：075-213-0453  
設立：1996年  
会長：山内寛  
会員：93名

活動内容：こみ減量と発生抑制を目的とした  
1)めぐレットペーパー等の普及・啓発活動、  
2)小学校等への出前授業、3)市民意識・実態調査、4)環境教室、出前学習会の開催



製品応用紹介 (日常製品、機械部品)



本社ビル

【左から】取材に応じて下さった福岡、エネルギー推進部長 福田浩二さん、同主任 (ISO環境管理責任者) 近藤啓夫さん、広報・川原謙一さん



## 福田金属箔粉工業株式会社

創業130年の歴史がある会社です。

**A** 福田金属箔粉工業株式会社 (以降、当社) は、1700年に初代当主福田源次が京都・室町で蒸着粉の商いを起したのが始まりと語られております。1893年姉山利に工場を開設。日清戦争後、真鍮粉の輸出が激増し、増大し、量産のための製造工場が必要でした。三日月の土地と水車の特権を手に入れ、水力による真鍮粉の工場生産が始まりました。そして、現代の自動発生生産システムの基礎が確立されていきました。

### Q メタルスタイルとは?

**A** 当社は01年1月、今後の方向として「21世紀ビジョン」を掲げました。企業目的、理念、基本方針を項目を文書化したもので、この中で金属箔、金属粉の内部構造や表面形状を自在にデザインし、造り出すことを目的として「メタルスタイル」として表現しています。当社は130年間蓄積してきた金属に関する専門知識や技術、探求心や研究心より、時代の要請に応える様々な素材・用途を開発し、幅広い産業分野へ製品を提供しています。皆さんの生活の中心に当社の製品が提供されることは、皆さんの生活の質を向上させることにつながります。また、直接見えますが、携帯電話やパソコンなど通信や家電製品の中心に組み込まれているシリコンや樹脂や様々な部品がその一例です。当社の総販売数は、数千品種に及びます。

### Q 燃料電池事業にも関わってみたいですか?

**A** 88年に「新商品開発推進部」を設け、研究・技術開発と市場開発機能が一体となり、設計段階からユーザーや大手、公的機関と連携し新商品の共同開発を行う体制を整えました。製品は「信用か」だけでなく「品質」も顧客に本来「買ってもらえる

すが、次の二工程に常に謙虚にゆえ、新提案を行うという姿勢もまた長年底流であり、これを形にしたものです。ここでは、市場志向型・顧客志向の開発テーマを採り活動しています。当面のキーワードは、情報・環境・エネルギー・情報関連。中でも燃料電池用の材料開発は、環境分野において注目を集めており、当社こそその力を入れているテーマの一つです。

### Q ISO14001の認証取得は?

**A** 00年に建設工場で、02年に本社、京都工場で環境管理システム認証取得しました。当社製品は家電・自動車業界への出荷も多く、環境配慮についてお客様が求めることが取り組みを始めたという社会的背景もあり、結果的には、自らの取り組みとして、全社的に体制を整え、大きな実りをもたらしています。システム導入後、削減した廃棄物量や水・エネルギー消費量は、膨大な量であり、金額に換算しても相当な額に及びます。



ISO14001認証取得 (認定状)

また「ISOの環境マネジメントシステム」を難しく考えず、従来の企業活動の一環として環境配慮の視点を組み込む感覚を再考してきました。つまり、生産現場での研究開発活動の口やエネルギー等の消費を低減し、研究開発活動で環境配慮型製品を設計開発するなどは、企業活動ならびに環境にも貢献することになります。この認識により、肩の力が抜けた気がします。

### Q ごみ減量の取り組みは?

**A** ISO14001に基づき取り組みの中で、環境目標として、年度ごとに具体的なサイクル率を設定しています。03年度の目標は、管理対象としている36品目のうち50%にあたる17品目をリ

サイクルするということです。これは既に達成の目標がつけられています。

実は、ISO導入当初は環境方針の活動3原則である「省資源・省エネルギー」(廃棄物削減、3R)環境への影響・負荷を最小にする方針が設備等の改良、改善に結びついた共通入口一力を掲げ、全社的に取り組みを中心としたものでしたが、03年度に「発展の中心意思」への切り替えが、運用管理面では、各現場事情に合わせた柔軟な取り組みを推進する方針がより効果的と判断したからです。

### Q 今後の方針は?

**A** ごみ減量に関しては、リサイクル率50%を達成しました。04年度は目標を60%、将来的にはゼロエミッションを叶えるべく取り組みを続けております。当面の課題は、新製品のリサイクルです。このために、素材の可能性を追求した製品提供の観点から、「地球環境を企業活動の中」という環境基本方針(21世紀ビジョン)と、地道な改善努力を続けながら、次の10年に向けて、産業・社会の発展に貢献したいと考えております。大げさかもしれませんが、当社の歴史からして責任の範囲内にとっております。

## 福田金属箔粉工業株式会社

本社所在地：  
〒607-8305 京都市山科区西野山中區町20番地  
TEL：075-581-2161 (代表)  
FAX：075-581-7271  
URT Home Page：http://www.fukuda-kyoto.co.jp/  
社長：林 孝彦  
創業：1700年  
設立：1935年 (昭和10年)  
資本金：7億円 (2003年11月末現在)  
従業員：560名 (2003年11月末現在)  
営業品目：【金属箔】電解表面処理銅箔、電解ニッケル箔、電解表面処理ニッケル箔など【金属粉】電解粉(銅、銀)、アトマイズ粉など【その他】建材、看板材(金属複合板)、医薬品・食品包装材料など

# 「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

取材：岡かおる

## （ 始まりは3人の有志から 今では地域を巻き込んで ）

鏡山学区地域ごみ減量推進会議（山科区）

鏡山学区地域ごみ減量推進会議は今年8月に発足したばかり。しかし使用済み天ぷら油回収の動きは3年前から始まっていた。当時消防団に所属していた会長の竹本武一郎さんは、続けて発生したボヤが天ぷら油を固めて捨てると発生したものだとの。また近所では農業用水に流される油が問題に。地球温暖化防止京都会議（COP3）の後だったこともあり、町内会長2人に呼びかけて、2000年6月から一部の地域で油の回収を開始した。

今年4月に開催されたイベント「京都まちづくり」に、同学区は環境をテーマに参加。その際、まち美化事務所の協力を得られたことを契機に、油回収に対する地域住民の理解や協力体制が一気に学区全体に広がった。4カ月後には同会が発足。現在11カ所ある回収拠点はすべて住民の申し出によるもの。各自が自主管理しているため、回収時の立ち会いはスーパー前の1カ所のみ。回収量は年々倍増している。

「回収を始めたことで地域の協力体制が強まり、他の活動もどんどん活発になってきた」と竹本さん。今後は学習会やフリーマーケットなど「やりたいことがいっぱい」だそう。

- ◆会長：竹本武一郎
- ◆会員数：100人
- ◆発足：2003年（平成15年）8月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：回収拠点は11カ所。うち7カ所は毎月第4金曜日、午前10時～11時（うち1カ所の午前6時半～11時）。他4カ所は常設。

回収現場。「この油で車が燃えたらもうと毎月の世話ももたらさない」



会長の竹本武一郎さん（中央）と有志のメンバーが、回収現場で回収した天ぷら油を回収する様子。

## （ ごみは減らして会話はふえて 古紙回収とのドッキングで地域に浸透 ）

紫竹地域女性会ごみ減量推進会議（北区）

紫竹地域女性会ごみ減量推進会議の母体となった女性会は、今年30周年を迎えた。長年培われた地域のつながりの強さが3年前から始めた油の回収にも生かされている。もともと保健協議会で話に出ていた油の回収に、当時環境問題への関心があった女性会で取り組むことになった。

チラシやポスターで広く学区民に呼びかけ、女性会が創立当初より取り組んでいた古紙回収の拠点を利用する形でスタート。油と紙を同時に回収することで、利用する住民も便利に、相乗効果で回収量も増えた。回収を始めてからは「以前は庭に埋めていたが猫に荒らされ困っていた。今は助かる」、「使用後の処理の心配がなくなったので揚げ物をするようになった」など歓迎する声も。回収現場には役員と町委員が立ち合う。副会長の堺紀恵子さんと町委員の明石隆子さんは、「現代では地域のコミュニケーションが大切。挨拶を交わし、ゴミ減量もできて一石二鳥」と口をそろえる。

同会では今年、小学校での環境学習の一環として廃油石けん作りの指導もした。「ほかず油が石けんになるのを見てもらえた」と、堺さん。この体験が子どもたちの将来へとつながるよう、願いを込めて活動を重ねている。



回収現場には古紙の山とポリタンクが並ぶ



回収を終えて、左から堺さん、桂さん、明石さん

- ◆会長：加倉（かや）弘子
- ◆会員数：300人
- ◆発足：2000年（平成12年）5月
- ◆使用済み天ぷら油の回収：回収拠点は14カ所。毎月最終水曜日、午前8時～10時。

### 京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.24

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2004年（平成16年）2月発行  
〒604-8571 京都市中京区寺町御池  
京都市環境局 環境政策部 循環型社会推進課内  
TEL. 075-257-5053 FAX. 075-213-0453  
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp  
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議広報活動実行委員会  
委員長代理／宮本時江  
実行委員／浅利美鈴、大橋正明、岡松誠一、田中真砂世、中島和子、西田敏光、細川万里子、岡本正、森田知都子、山本忠史

古紙100%の再生紙（白色版用）に大豆インクで  
電力発電による自然エネルギーを用いて印刷しています。



### 【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

### 【会費】

- 市民（市民団体・消費者団体・環境団体等） 1口1千円（年間1口以上）
- 専門家（学識経験者等） 1口1千円（年間2口以上）
- 地域ごみ減量推進会議 企業等・行政

詳細は、事務局へお問い合わせください。